手術前患者さんに対する薬剤管理指導のお願い

当院では、手術前患者さんへ休薬すべき薬剤がある場合、右図の説明・同意書をお渡ししています。

手術前中止薬の誤服用を防止するため、手術前患者さんに対して薬剤管理指導等のご協力をお願いします。

指導ポイント

- ○ 休薬の説明や書面をもらっているかどうか
- ○ どの薬剤を休薬するのか実薬を理解できているかどうか
- ○ 病院へ見せていない薬があるかどうか
- ○ 誤って服用している薬がないかどうか
- ○ １包化されていて、休薬が困難でないかどうか

問題等がある場合、情報提供文書もしくは疑義照会等による連絡を薬剤部までお願いいたします。

手術における中止薬同意書

#DOCDATE

患者番号 #PATIENTID
患者氏名 #PATIENTNAME様
生年月日 #PATIENTBIRTH
性別 #PATIENTSEXN
年齢 #PATIENTAGEFORMATTED

以下の通り説明いたしました。

説明担当薬剤氏名 #REQUESTNAME
確認薬剤師名
同席スタッフ氏名

心臓病や脳血管障害、動脈閉塞症などで血を固まりにくくする薬(抗血栓薬)を服用されている場合は、飲んでない方に比べて手術に伴う出血の危険性が増加することがあります。出血を防ぐために、一時的に休薬あるいは内容を変更した場合、出血の危険性は減りますが、血栓塞栓症(脳梗塞や心筋梗塞)が起こる可能性があります。手術の内容や患者さんの容態によって薬を中止しないで手術を行なう場合や、長期間中止する場合がありますので、下記記載通り医師の指示に従って下さい。
また抗血栓薬以外にも手術に影響をおよぼす薬がありますので、下記の通り医師の指示に従って下さい。

あなたの手術日は　　です。

中止すべき薬を服用しているため、下記の指示に従ってください。

<抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)>

薬品名	手術前休薬期間		休薬開始日	
	手術	日前から休薬		より休薬
	手術	日前から休薬		より休薬
	手術	日前から休薬		より休薬

<その他の薬>

薬品名	手術前休薬期間		休薬開始日	
	手術	日前から休薬		より休薬
	手術	日前から休薬		より休薬
	手術	日前から休薬		より休薬
	手術	日前から休薬		より休薬

年　月　日
上記の説明を受け、服用に関しての指示を承諾します。患者氏名
代理人氏名　　(続柄)

聖霊病院　手術前休止薬一覧表

下記表は薬剤の出血・血栓症リスクのある薬剤の休薬目安です。患者の血栓症リスクや手術の出血リスクにより、対応は異なることがあります。

薬効別	代表薬剤	出血低リスク	出血高リスク	中止理由
抗血小板薬	バイアスピリン、シロスタゾール	休薬なし	各薬剤の中止基準	止血が困難となる場合があるため
気分安定薬	リーマス、炭酸リチウム	1日前	1日前	利尿薬等の使用によりNa排泄が増加し、リチウム中毒を起こす報告
新規抗凝固薬	エリキュース、リクシアナ	休薬なし	各薬剤の中止基準	止血が困難となる場合があるため
抗凝固薬	ワーファリン	休薬なし	3～5日前	止血が困難となる場合があるため
血管拡張薬	オパルモン、	休薬なし	1日前	止血が困難となる場合があるため
冠血管拡張薬	ペルサンチン、コメリアン	休薬なし	各薬剤の中止基準	止血が困難となる場合があるため
脳循環代謝改善薬	ケタス、セロクラール	休薬なし	2～3日前	止血が困難となる場合があるため
ACE阻害・ARB	レニベース、バルサルタン	休薬なし	1日前	レニン・アンギオテンシン系の抑制は麻酔導入時の低血圧を増強する
サイアザイド・ループ利尿薬	フルイトラン、ラシックス	休薬なし	1日前	昇圧アミンの作用を減弱する恐れがある
ピル・卵胞ホルモン	ルナベル、トリキュラー、プラノバール	休薬なし	28日前、術後14日後再開	静脈血栓症の危険が増強する
骨粗鬆症治療薬SERM	ビビアント、エビスタ	休薬なし	3日前	静脈血栓症の危険が増強する
喘息・鼻炎TxA2拮抗薬	バイナス、ブロニカ、ベガ	休薬なし	1日前	止血が困難となる場合があるため
糖尿病薬 SU薬、DPP4阻害、SGLT2阻害、GLP1、αグルコシターゼ阻害、速効型インスリン分泌	グリメピリド、ボグリボース、グルファスト、ジャヌビア、ビクトーザ、スーグラ	休薬なし	1日前	周術期の血糖コントロールはインスリンが望ましい
骨粗鬆治療ビスホスホネート	アレンドロン酸Na、ボノテオ、ボナロン	歯科処置のみ３か月前中止、術後２週後再開		顎骨壊死の危険を増強する
TNF阻害薬	レミケード、エンブレル	ガイドライン各薬剤中止基準		感染症の危険、創傷治癒が延長する危険があるため
IL-6モノクローナル抗体	アクテムラ	ガイドライン各薬剤中止基準		術後CRP上昇、WBC上昇が認められなくなるため
分子標的抗癌剤	アバスチン、ネクサバール	各薬剤の中止基準		創傷治癒が延長する危険があるため